

両国の助け合いによる 結核制圧を目指して

瀋陽市第十人民医院 結核実験室

主管技師 譚珂

瀋陽市防痨協会は、日本の宮城県結核予防会と1991年に友好関係を築いて以来、年に一回瀋陽と仙台で交互に『結核予防及び胸部疾病日中友好交流会議』を開催してきました。この友好交流活動は現在まで27年の長きにわたり続いています。昨年、瀋陽で友好交流26周年の祝典が行われた後、結核予防会本部にて『第27回結核予防及び胸部疾病日中友好交流会議』を開催することが決定しました。

今年は日本側の招聘により、瀋陽市胸科医院書記姜彭嘉を団長に、瀋陽市胸科医院副院長李坤、瀋陽市胸科医院胸部外科主任田懷宇、瀋陽市胸科医院結核実験室主幹技師譚珂、長春市伝染病医院院長張義を団員として瀋陽市医学友好交流団を組織し、今回の会議に出席しました。

10月9日に瀋陽から出発しました。交流団が空港に到着すると、事業部の前川部長と山本さんが出迎えてくれ、一行はリムジンバスで東京へ向かいました。

10月10日、結核予防会本部の主催により結核研究所で第27回友好交流会議が開催されました。工藤理事長の開会挨拶の後、姜団長が挨拶を行い、互いに記念品を贈り合いました。その後、日中双方の専門家による素晴らしい学術講演が行われ、たびたび場内は熱烈な拍手に包まれました。中国側の講演は、1)「結核性膿胸の外科治療」、2)「長春市結核予防計画(2016-2020年)の紹介」。日本側の講演は、1)「菌陰性結核」、2)「抗酸菌検査の新しい診断法の発展」でした。

昼食後は、有名な複十字病院の結核病棟を視察しました。

午後の講演終了後は、「多剤耐性結核の臨床試験の可能性」に関する意見交換会が開かれました。学術報告の終了後、指導者及び専門家がいかに日中の医学研究協力を展開するかについて自由な討議がされ、非常に友好的で打ち解けた雰囲気の中で交流が行われました。

今回の学術交流会議に出席したのは、結核予防会の理事長、専務理事などの役員と結核研究所所長、副所長、複十字病院の医師の皆さんでした。交流活動全体を通して整った手配がされており、友好的な雰囲気でも内容も充実しておりました。最後には記念撮影が行われました。

10月11日午前、前川部長と山本さんの案内により

新幹線で仙台に向かいました。午後は仙台病院、魯迅記念碑と青葉城址を見学しました。夜は歓迎会が開かれ、宮城県結核予防会の渡辺理事長と姜団長が挨拶をし、互いに記念品を贈り記念撮影を行いました。

10月12日、午前中は仙台市役所を視察し、福祉局で交流と討論を行いました。友好的な雰囲気でも内容も充実しておりました。午後は新幹線で東京に戻りました。

時間が経つのは早く、5日間の友好交流活動はあっという間に過ぎてしまいました。10月13日、帰国するに当たり、小林募金推進部長と前川事業部長、山本さんが見送って下さいました。空港ではみな名残を惜しみ、これまでの長きにわたる日中医学交流の想い出を語り合いました。今回の第27回友好交流も円満な成功を収めたという共通認識の下、来年第28回友好交流活動を瀋陽で行うことを約束しました。

今回の交流活動を通して、我々は日本における結核予防の成就に感銘を受けました。数十年前は日本も結核に脅かされた国の一つでしたが、何代もの人々の努力によって日本では結核の流行は有効に抑制されました。各種新技術の臨床応用、有効なDOTS戦略の実施が、日本の結核流行の抑制に重要な作用をもたらしたのです。日本の結核専門家の謹厳で実践的な仕事ぶりとのこもったもてなしは、我々に深い印象を残しました。

結核は全世界の人類を脅かす感染症であり、この30年来中国は結核予防分野でも注目すべき成績を上げておりますが、状況は依然として厳しく、政府は結核を国家重点抑制伝染病に指定しています。国際協力と交流を強化し、全世界的に有効に結核を抑制することが極めて重要です。日本は先進的な技術開発基盤と先進的な管理対策と経験を持っており、日中両国の結核専門家が助け合って共に努力することで、結核を征圧する日も遠くないと確信しています。🐼



結核研究所前にて記念撮影(筆者左端)